

## 安全データシート

According to JIS Z 7253:2012

改訂日 2019-7-19

版 2.02

## 1. 化学品及び会社情報

製品名	安息香酸
製品コード	020-00982,024-00985
CAS 登録番号	65-85-0
化学式	C7H6O2
製造者	富士フイルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 Tel: 06-6203-3741 Fax: 06-6201-5964
供給者	富士フイルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 電話:06-6203-3741 FAX番号:06-6203-2029
緊急連絡電話番号	試薬営業本部西日本営業部 06-6203-3741 試薬営業本部東日本営業部 03-3270-8571
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物質又は混合物の分類

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

区分1

生殖毒性

区分2

特定標的臓器毒性(反復暴露)

区分2

区分2 上部気道

水生環境有害性(急性)

区分3

## 絵表示



注意喚起語

危険

## 危険有害性情報

H318 - 重篤な眼の損傷をおこす

H361 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

H402 - 水生生物に有害

H373 - 長期暴露または反復暴露により以下の臓器に障害を生じるおそれ: 上部気道

## 注意書き-(安全対策)

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全予防措置を読み、理解するまでは取り扱わないこと。
- ・個人用保護具を着用すること。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・環境に放出しないこと。

## 注意書き-(応急措置)

- ・ばく露、もしくはその恐れがある場合、医師の治療を受けること。
- ・眼に入った場合、数分間気を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。
- ・ただちに医師に連絡すること。

## 注意書き-(保管)

- ・施錠して保管。

**注意書き(廃棄)**

- ・内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

**その他**

ほかの危険有害性

情報なし

**3. 組成及び成分情報**

純物質もしくは混合物

単一物質

化学式

C7H6O2

化学名	重量パーセント	分子量	化審法官報公示番号	安衛法官報公示番号	CAS登録番号
安息香酸	99.5	122.12	(3)-1397	公表	65-85-0

不純物または安定化添加剤

非該当

**4. 応急措置****吸入した場合**

新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

**皮膚に付着した場合**

すぐに石鹸と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

**眼に入った場合**

眼に入った場合、数分間目を閉じて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

**飲み込んだ場合**

口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

**応急処置をする者の保護**

個人用保護具を着用すること。

**5. 火災時の措置****消火剤**水スプレー(水噴霧)、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、泡、粉末消火剤、砂**使ってはならない消火剤**

利用可能な情報はない

**特有の消火方法**

利用可能な情報はない

**火災時の特有危険有害性**

熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。

**消火を行なう者の保護**

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

**6. 漏出時の措置****人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を待避させる。

**環境に対する注意事項**

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材**

飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

**回収、中和**

利用可能な情報はない

**二次災害の防止策**

環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

強酸化剤との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。

#### 注意事項

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

#### 安全取扱注意事項

皮膚、眼、衣服との接触を避ける。個人用保護具を着用すること。

### 保管

#### 安全な保管条件

##### 保管条件

容器は遮光し、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。

##### 安全な容器包装材料

ポリエチレン

#### 混触禁止物質

強酸化剤

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

### ばく露限界

この供給された製品は地域の特定取締機関によって発行された職業ばく露限界値のある有害危険物を含有していない。

### 保護具

#### 呼吸器用保護具

防塵マスク

#### 手の保護具

保護手袋

#### 眼の保護具

側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)

#### 皮膚及び身体の保護具

長袖作業衣

### 適切な衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 形状

#### 色

白色

#### 性状

結晶～結晶性粉末

### 臭い

特異臭

### pH

データなし

### 融点・凝固点

121-124 °C

### 沸点、初留点及び沸騰範囲

249 °C

### 引火点

121 °C / 250 °F

### 蒸発速度

データなし

### 燃焼性(固体、ガス)

データなし

### 燃焼又は爆発範囲

#### 上限:

データなし

#### 下限:

データなし

### 蒸気圧

データなし

### 蒸気密度

データなし

### 比重・密度

1.3g/ml (20°C)

### 溶解性

水：溶けにくい。エタノール、ジエチルエーテル、有機溶媒：溶けやすい。

### n-オクタン/水分配係数

1.87

### 自然発火温度

532 °C / 990 °F

### 分解温度

データなし

### 粘度(粘性率)

データなし

### 動粘度

データなし

## 10. 安定性及び反応性

## 安定性

安定性

光により変質するおそれがある。

反応性

データなし

## 危険有害反応可能性

通常の処理ではなし。

## 避けるべき条件

高温と直射日光, 湿気

## 混触危険物質

強酸化剤

## 危険有害な分解生成物

一酸化炭素 (CO), 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)

## 11. 有害性情報

## 急性毒性

化学名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
安息香酸	1700 mg/kg (rat)	> 2000 mg/kg (rabbit)	> 12.2 mg/L (rat) 4h

化学名	急性毒性(経口)分類根拠	急性毒性(経皮)分類根拠	急性毒性(吸入-ガス)分類根拠
安息香酸	ラットのLD50値として、1,700 mg/kg(環境省リスク評価第7巻: 暫定的有害性評価シート(2009)、SIDS(2004))、2,530 mg/kg、2,565 mg/kg(SIDS(2004))、2,700mg/kg(JECFA FAS5(1974))、3,040 mg/kg(SIDS(2004)、CICAD 26(2005))の報告がある。該当数の多い区分外とした。	ウサギのLD50値として、> 2,000 mg/kg、> 5,000 mg/kg(SIDS(2004))、> 10,000 mg/kg(SIDS(2004)、CICAD 26(2005))の報告に基づき、区分外とした。	GHSの定義における固体である。

化学名	急性毒性(吸入-蒸気)分類根拠	急性毒性(吸入-粉塵)分類根拠	急性毒性(吸入毒性-ミスト)分類根拠
安息香酸	GHSの定義における固体である。	ラットの4時吸入ばく露におけるLC50値 > 12.2 mg/L(SIDS(2004))に基づき区分外とした。なお、LC50値は飽和蒸気圧濃度(0.005 mg/L)以上であり、試験は粉じんで行われたとの記載に基づき、mg/Lを単位とする基準値を適用した。	ラットの4時吸入ばく露におけるLC50値 > 12.2 mg/L(SIDS(2004))に基づき区分外とした。なお、LC50値は飽和蒸気圧濃度(0.005 mg/L)以上であり、試験は粉じんで行われたとの記載に基づき、mg/Lを単位とする基準値を適用した。

## 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

化学名	皮膚腐食性、刺激性分類根拠
安息香酸	SIDS(2004)には、テストガイドラインに準拠した試験で「軽度の刺激性」又は「刺激性なし」と報告されている。一方、エタノール又はクリームに0.05%含有する本物質を用いたパッチテストで614人中18人で刺激性がみられたとする報告やワセリンに0.5%含有する本物質を用いたパッチテストで32人中7人で蕁麻疹がみられたとの報告があるため、分類できないとした。

## 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

化学名	重篤な眼損傷性分類根拠
安息香酸	SIDS(2004)において、テストガイドラインに準拠した試験で「重度の刺激性」又は「腐食性」と報告されていることから、区分1とした。

## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

化学名	呼吸器および皮膚感作性分類根拠
安息香酸	呼吸器感作性: データ不足のため分類できない。 皮膚感作性: SIDS(2004)には、テストガイドラインに準拠した試験で「感作性なしとするデータが多数報告されている。一方、ヒトへの影響としては、ワセリンに0.5%含有する本物質を用いたパッチテストで32人中7人で蕁麻疹がみられたとの報告

	(SIDS(2004))、皮膚科の患者2,045人に、5%濃度の本物質Na塩でパッチテストを行った結果、陽性反応のみられたのは5人(0.2%)のみであったとする報告や、化粧品に対してアレルギーや刺激症状があると考えられる患者5,202人に本物質でパッチテストを行った結果、34人(0.7%)で陽性反応がみられたとする報告など、感作性ありとする報告が多数がある(環境省リスク評価第7巻：暫定的有害性評価シート(2009))。しかし、SIDS(2004)では、健康なヒトでは感作は起こり難いと結論していることから、分類できないとした。
--	---

**生殖細胞変異原性**

化学名	変異原性分類根拠
安息香酸	データ不足のため分類できない。すなわち、本物質に関するin vivoデータはなく、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、JECFA FAS 48(2002))。ただし、SIDS(2004)では、本物質及びその関連物質である安息香酸ナトリウム、安息香酸カリウム、ベンジルアルコールを含め、突然変異性及び染色体異常誘発性はないと記載している。

**発がん性**

化学名	発がん性分類根拠
安息香酸	本物質は、EPAでグループD(IRIS(1991))のため、分類できないとした。

**生殖毒性**

化学名	生殖毒性分類根拠
安息香酸	ラットを用いた経口経路(混餌)での4世代生殖毒性試験において生殖・発生毒性はみられていない(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、環境省リスク評価第7巻：暫定的有害性評価シート(2009)、HSDB(Access on September 2013))。また、発生毒性に関しては、ラットを用いた経口経路(強制)での発生毒性試験において胚吸収の増加がみられた(HSDB(Access on September 2013))との報告と発生毒性はみられていない(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、環境省リスク評価第7巻：暫定的有害性評価シート(2009))との報告、ハムスターを用いた経口経路(強制)での発生毒性試験において胚吸収の増加と奇形の増加がみられている(HSDB(Access on September 2013))との報告がある。発生毒性がみられたとの報告がリスト2の情報源からのみであることから、区分2とした。

**特定標的臓器毒性(単回ばく露)**

化学名	特定標的臓器毒性(単回ばく露)分類根拠
安息香酸	データ不足のため分類できない。なお、ラットの経口投与においてガイダンス区分2の用量(1,984 mg/kg)で体重増加に影響は見られなかったとの記載がある(SIDS(2004))。CICAD 26(2000)にはラットの経口経路(投与量不明)において下痢、筋力低下、振戦、自発運動の亢進、衰弱がみられたとの記載がある。またラットの吸入ばく露(粉じん)においてはガイダンスの範囲外の濃度(12.2 mg/L)において一時的な自発運動の亢進や流涎がみられたが、後に回復した(SIDS(2004))との記載がある。ウサギの経皮ばく露においてはLD50 > 2,000 mg/kgとあるが明確な毒性症状について記載がない。以上の結果から、区分の判断に足る所見がないことからデータ不足のため分類できないとした。

**特定標的臓器毒性(反復ばく露)**

化学名	特定標的臓器毒性(反復ばく露)分類根拠
安息香酸	ラットの経口ばく露及びウサギの経皮ばく露では区分2のガイダンス値を上回る用量においても毒性所見は見られていない(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、IUCLID(2000))。一方、ラットに本物質エアゾルを4週間吸入ばく露した試験では、区分2のガイダンス値の範囲内(ガイダンス値換算濃度：0.078 mg/L)の濃度で上気道の炎症、腎臓重量の減少が見られている(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、IUCLID(2000)、HSDB(Access on October 2013))が、腎臓は病理組織変化を伴っておらず、標的臓器とするには不十分であると判断した。以上の結果から、区分2(上気道)とした。

**吸引性呼吸器有害性**

化学名	吸引性呼吸器有害性分類根拠
安息香酸	データ不足のため分類できない。

**12. 環境影響情報**

## 生態毒性

化学名	藻類/水生植物	魚	甲殻類
安息香酸	EC50:Anabaena inaequalis 5 mg/L 3 h	LC50:Bluegills 44.6 mg/L 96h	EC50:Daphnia magna 300 mg/L 24 h EC50:Daphnia magna 860 mg/L 48 h

## その他のデータ

化学名	水生環境有害性(急性)分類根拠	水生環境有害性(慢性)分類根拠
安息香酸	魚類(ブルーギル)の96時間LC50 = 44.6 mg/L(SIDS, 2004)から区分3とした。	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性があり(2週間でのBOD分解度=85%(既存点検, 1979))、急性毒性は区分3であるが、生物濃縮性が低いと推測される(LogP=1.88(SIDS, 2004))ことから、区分外とした。

残留性・分解性  
 生体蓄積性  
 土壌中の移動性  
 オゾン層への有害性  
 移動性

利用可能な情報はない  
 利用可能な情報はない  
 利用可能な情報はない  
 利用可能な情報はない

## 13. 廃棄上の注意

## 残余廃棄物

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

## 汚染容器及び包装

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

## 14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)	規制されていない。
国連番号	-
品名	-
国連分類	-
副次危険性	-
容器等級	-
海洋汚染物質	非該当
IMDG(海上)	規制されていない。
国連番号	-
品名	-
国連分類	-
副次危険性	-
容器等級	-
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78やIBCコードに則ったバルクの輸送	利用可能な情報はない
IATA(航空)	規制されていない。
国連番号	-
品名	-
国連分類	-
副次危険性	-
容器等級	-
環境有害物質	非該当

## 15. 適用法令

## 国際インベントリー

EINECS/ELINCS 収載  
 TSCA 収載

**国内法規**

消防法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	非該当
危険物船舶運送及び貯蔵規則	非該当
航空法	非該当
PRTR法	非該当
輸出貿易管理令	非該当

**16. その他の情報**

引用文献および参照ホームページ等 NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>  
IATA危険物規則書  
RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances  
中央労働災害防止協会 GHSモデルSDS情報  
有機合成化学辞典 (社) 有機合成化学協会 講談社サイエンティフィック  
化学大辞典 共立出版  
等

**免責事項**

このSDSはJIS Z 7253:2012に準拠しております。記載内容は通常の取扱を対象としたものであって他の物質と組み合わせるなど特殊な取扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用ください。改訂日における最新の情報に基づいて作成されておりますが、すべての情報を網羅しているものではありませんので新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。また、安全な取扱い等に関する情報提供を目的としておりますので物性値や危険有害性情報などは製品規格書等とは異なりいかなる保証をなすものではありません。全ての製品にはまだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取り扱いには十分ご注意ください。

GHS分類はJIS Z7252(2014)に準拠している。\*JIS: 日本産業規格

以上